

放射線リスクコミュニケーション 相談員支援センター だより



住民の方の声を拾い続けるために
—浪江町健康保険課放射線対策係
大谷みち子さん（保健師）



—大谷さんは浪江町の避難先住民の方等に向け「笑顔つむぐサロン」、通称「えがサロ」を開催しています。放射線の正しい理解や健康影響に関するの情報提供及び生活習慣を見直し健康づくりに取り組んでもらう継続的な活動を行っており、昨年度は10回開催しました。振り返ってみていかがですか。

昨年度は、周知や参加者への声掛けがしやすいことから復興公営団地の自治会長にご協力をいただきながら「えがサロ」を開催しました。最初はこちらから話題提供をしますが、その後いろいろな質問や疑問が出されます。そうした中で「放射線の話は初めて聞いた」と話す住民が多いことに驚きました。また、復興公営団地では各種関係団体が主催する行事等があり参加しやすい一方で、避難先に自宅を再建した方には、情報等が届きに

くいのではないかと感じました。

—復興公営団地以外でサロンをされた際はどのようにでしたか。

帰還困難区域からの避難で自力再建した方が多くいる地域の方を対象に「えがサロ」を開催したときはたくさん集まっていただき「もっと早く放射線のことを教えてほしかった」と言われました。参加者の中には浪江町の自宅に一時帰宅等で戻ったときの放射線量の高さに対し、強い不安を訴える方がいらっしゃいました。そのときの説明で、私が帰還困難区域を通して測定したDシャトルのグラフを用いて「空間線量計で示された線量が高めの所に少しの間滞在しても、日々の生活における1年間の積算線量を見ても思っているより少なかった」という話をしたところ、ある参加者はムツとした表情になり、小さな声でしたが「そんなに軽々しく言わないでほしい」とおっしゃいました。

—不安を感じているとき、他人からあっさり説明されてしまうと、自分の感情を否定されたように感じてしまうことがありますね。

とても反省しました。大切な場所の線量が高く、そこに戻れないことに憤りや深い悲しみを感ずるのは当然だと思います。それでも、「軽々しく言わないで」と言っていた方が、サロンが終わる頃には「Dシャトルを使って被ばく線量を測ってみたい」と旗振り役になってくださり、次のサロンが決まりました。1回目に参加しなかった人も含めて10人の方にDシャトルを活用してもらうことになり、3週間後に読み取り会を実施しま

した。思っていたより少ないという感想があったり、新たな放射線の疑問や不安について話が出たり、様々な話題が出ることにつながりました。今回は、お墓参り等一時帰宅する機会が多いお盆のあとに読み取り会を行い、被ばく線量を確認したいと希望が出されました。

——会を重ねるにつれ、参加された住民の方々が積極的になっていったのが印象的です。

参加した皆さんが笑顔になったのが嬉しかったです。私たちは、待っているだけではダメで、些細な機会も逃さずに住民と接触できる場面をいかに作るかが大切だと思います。正しい情報を知る機会や話せる場所がないまま放射線の話から遠ざかってしまうと、何かの折に不安が増すことがあるのではないかと思います。正しく理解してもらい、今後の生活の判断材料の一つにしてもらうためにも、線量計などを貸しっぱなしにせず、震災から8年経った今でも交換のタイミング等は住民の方と接触する大切なチャンスと捉えて、次につなげる努力を重ねていきたいと思っています。

——住民の方の声を拾うために機会を捉えアプローチし続ける姿勢が大切なのですね。ありがとうございました。

相談員支援センター 業務のご案内

平成31年4月10日、福島第一原子力発電所の立地自治体である大熊町の一部地域で避難指示が解除となり、大川原地区に新しくなった大熊町役場も戻ってきました。また、大野駅周辺の特定復興再生拠点区域についても、令和4年春頃を目途に避難指示の解除と住民の帰還開始を目指しています。

同様に双葉町も、避難指示解除準備区域と双葉駅周辺の一部区域について、令和元年度末頃までの先行的な避難指示解除を、令和4年春頃までに双葉駅

周辺の特定期復興再生拠点区域全域の避難指示解除を目指しており、国から避難指示が出された全ての福島県内市町村の避難指示が解除される日が近づいています。一方で、帰還後に放射線への不安や懸念が生じた方への対応の仕方、県外から転入してきた方から地域の現状について知りたいといった声を伺います。



【車座意見交換会の支援例】

講師による講演等の座学形式の他に実地での見学会等、体験型を中心にしたいたいのご要望

- ・浄水場やダムを見学し、水道水になる過程でどのように放射性物質が取り除かれるのか等の理解を深める見学会として車座意見交換会を開催。
- ・福島第一原子力発電所の構内視察に合わせ廃炉資料館等の関連施設見学を行い、廃炉に向けた進捗状況を総合的に理解していただくことを目指す車座意見交換会を開催。

【職員研修・住民セミナーの支援例】

県外から派遣されてきた自治体職員、新規採用職員等へ、県や自治体の放射線に関する現状を周知したいのご要望

- ・自治体の放射線に関する現状と放射線の基礎知識を学ぶ住民セミナーを、新規採用職員等を対象に開催。

【放射線教育に関する意見交換会の支援例】

県教育委員会と協働で、学校等で行う放射線教育のイメージを教職員に伝えたいとのご要望

- ・ 廃炉に係る関連施設見学、パネルディスカッションや意見交換を通し、目指すべき放射線教育のイメージをつかんでいただけるような教育セミナーを県内教職員対象に開催。

【放射線に係る自治体広報作成支援の支援例】

自治体で作成している放射線に係る広報資料の掲載内容の提案やデータ収集等についてのご要望

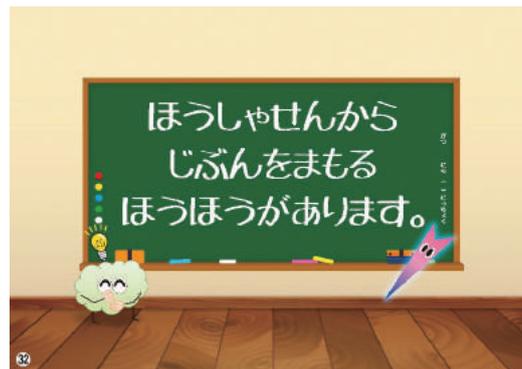
- ・ 広野町放射線相談室広報
「放射線相談室だより」
- ・ 葛尾村広報
「しみちゃんの放射線あれこれ」
他

福島県内において放射線に係る相談を受ける方を対象に皆様にご利用いただきやすい形で支援策のご提案をしております。

小学校低学年向け放射線教育用紙芝居のご紹介

福島県では放射線教育・防災教育に力を入れており、平成 29 年度以降「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」として県内の小中学校 7 校を実践協力校に指定し、研究授業を行う等の取り組みを行っています。この放射線教育・防災教育は「児童生徒が主体的に自ら考え級友と学び合うことを通し、放射線や防災に関する基礎的な知識を身に付け、困難な課題にも対応できる思考力・判断力・表現力や、地域社会の一員として安全・安心な社会づくりに貢献しようとする態度を育成」（福島県教育委員会作成【ふくしま放射線教育・防災教育実践事例集】

より一部抜粋）することを目標としています。



一方で、子供に放射線の知識について教える際、難しくて教えにくい、とっつきにくいと考える方も少なくないでしょう。

昨年度、相談員支援センターでは小学校低学年でも理解でき、放射線について正しい知識を持って自ら説明できるような内容の放射線教育用紙芝居を作成しました。



紙芝居読み聞かせのようす

3部作となっており、紙芝居1「ほうしゃせんって、なあに」では、身近にも放射線は存在すること、また、放射線の性質を生活のなかで利用している例について学べます。

紙芝居2「もっとしりたい、ほうしゃせん」では、平成 23 年 3 月の東日本大震災により原子力発電所事故が起こったこと、その後の社会状況について、環境中に放出された放射性物質に対する対策等、震災以降から現在までの経過を知り、外部・内部被ばくから自身を守る方法について学ぶ内容です。

紙芝居3「もっともっとしりたい、ほうしゃせん」では、放射線の人体への影響について理解を深め、

放射線により傷ついた DNA が修復され傷が治っていく過程を知り、それには健康な体づくりが重要であるということを伝えています。

親しみあるキャラクターからの問いかけを通して一緒に考え、自分のこととして放射線のリスクを考える力を育む紙芝居です。

この紙芝居の利用にあたっては、相談員支援センターの放射線教育支援等でご利用いただけます。



紙芝居キャラクター「もやもやくん」のぬいぐるみは子供たちに大人気



5/17 郡山会場のようす

子育て世代対象 車座意見交換会 / 保育施設職員対象 職員研修の例

第2回・第3回子育てカフェ車座意見交換会

5月17日に郡山市、23日に川俣町で、それぞれ第2回、第3回子育てカフェ車座意見交換会を行いました。両会場の講師は長崎大学折田真紀子助教、郡山会場のファシリテーターは一般社団法人Oval添田代表、川俣会場ではチャイルドボディセラピスト松田様にお願いしました。郡山会場では震災前から子育て中の方、震災後に県外から転入された方等、様々な立場の方が参加し、会の終了後も放射線の不安について講師への質問が途切れませんでした。「不安でしたが今は福島に住むことが幸せだと感じます」「また参加したい」という声をいただきました。

川俣会場では放射線教育用の紙芝居読み聞かせを行い、小さなお子さんは紙芝居キャラクターの「もやもやくん」に興味津々でした。その後、意見交換を行い、参加者からの「自家野菜を食べていますが微量でも放射性物質が含まれていた場合、母乳に移行するのでしょうか。子供に影響があるのではと心配です」という質問に「現在、自家野菜等の放射性物質は不検出で、母乳への移行があったとしてもごく微量のため、母乳を通じて子が放射線による影響を受けることはありません」と回答し、どちらの会場も折田助教の当意即妙

の受け答えが、参加者の方々の安心につながっていたようでした。



5/21、23 開催 浪江町にじいろこども園研修

原子力安全研究協会杉浦紳之理事長を講師に、にじいろこども園の職員を対象に放射線の基礎に関する研修会を開催しました。にじいろこども園では園内の空間線量測定を毎日、遊具の表面汚染測定を月に1回行っていることから、はじめに放射線と放射性物質の違いについて説明しました。

また、モニタリングポスト等の空間線量率が変動する理由について、放射性物質は周辺に固着しており浮遊することはないが、放射性物質が安定した物質になる際に放射線を出す確率は常に同じではないためであり、新たな放射性物質が飛来してくるわけではないこと等を説明しました。職員の方々が多忙のため、45分と比較的短時間の研修ではありましたが、日常感じる放射線に関する不安についてピンポイントかつ科学的に回答し、密度の高い研修となりました。



放射線の単位について説明する
原子力安全研究協会
杉浦理事長



放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.19

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6
いわきセンタービル5階、6階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

※4月より上記住所に変更となりました。

